

七ころび 八起き

第2号
平成23年
秋号



Higashikakogawa Hospital

医療法人達磨会 東加古川病院

<http://www.tatsumakai.jp>

理念

- 1) 精神医療に携わることに自覚と誇りを持ち、全力を尽くす。
- 2) 患者様、ご家族を含めた地域の人々の満足と信頼が得られるような病院づくりを目指す。
- 3) 地域精神医療に貢献するために、精神保健活動、啓蒙活動、対外活動を積極的に行う。
- 4) 安全な医療と安心できる環境を提供するために継続的な改善を重ねる。
- 5) 患者様の権利を尊重する。
- 6) 安定した経営基盤を維持する。

作品介绍

作業療法・デイケア 参加者の作品

右：女性開放病棟で作った作品
下：デイケア 11月のカレンダー



「ふれあいフェスティバル」に参加しました！

10月18日(火)日岡山公園グラウンドにて第23回ふれあいフェスティバル(第22回(社)兵精協社会復帰促進事業)が開催され、当院からは多くの患者様や職員が元気に参加しました。

ふれあいフェスティバルは東播臨海精神保健協会が主催で加古川健康福祉事務所・加古川市・高砂市・稲美町・播磨町といった行政機関、兵庫県精神科病院協会の東播7病院、兵庫県精神障害者家族連合会を中心とし、地域からも多くの方が模擬店やグラウンドゴルフに参加し、かわいい保育園児のステージ披露もありました。当院からも模擬店の出店、演技の披露、グラウンドゴルフに参加といった様々な形で地域の方と交流する場を持つことができました。



ステージで歌を披露



グラウンドゴルフの様子



フィナーレは皆で輪になって「新加古川音頭」を踊りました♪



新病棟紹介

前回に引き続き、新病棟の紹介をさせていただきます。
設備面で配慮した点、病棟での患者様の反響、様子などをお伝えできればと思います。



新病棟に移転し新たなスタートをきって！！

看護次長 村岡 由美

女性の開放病棟では、5年以上入院している患者様が多く、新病棟に適應できるのか看護師は気がかりで、移転前に新病棟の構造の案内表示や病棟ルールの変更等細かい点を準備していきました。時には患者様を交えて話し合いもしました。

新館移転後は、今まで見えていなかった患者様の個性がベッド周辺に現れ意外な一面を知りました。また、綺麗な環境を維持したいと女性らしい思いが日々の整理、整頓、清潔の自主的な行動として現われ、改めて患者様の埋もれていた力を見せて頂きました。

移転後まもなくして、患者様の御家族から「設備が綺麗になると、今まで見えなかった人(看護師)のことが見えてきた」と看護師の言動に目がいくようになったと話されました。

私達が患者様の一面を見せて頂いたように、患者様及び御家族の方に私達も観られていると痛感すると共に、看護サービスの更なる向上に日々努力しています。

左上：手作りの蝶々を壁に貼っています



右上、下：
ご自分の作品で床頭台の上を飾っています



設備面の紹介

トイレ・洗面所



病室の近くに分散し、夜間の利用にも安全で便利です。

ハンディキャップ(身障者)トイレは患者様が安全に使いやすい仕様にしたと思い、メーカーのショールームで体験した私達の意見を基に施工してもらいました。

HC(ハイケア)室



身体疾患を伴う患者様が增加している現状を踏まえ、各病棟にHC室を設け酸素配管吸引配管を設置しています。

準保護室



HC室同様に身体疾患の患者様にも対応できるような個室となっています。必要時は保護室としても使用できます。



行事特集 秋

日精看ソフトボール大会

9月15日 河合運動公園にて日本精神科看護協会ソフトボール大会が行われました。厳しい残暑の中、真っ黒になり頑張りました。



キャッチボールで体を温めています☆

いざ試合開始 ☆気合入ってます!

病棟 バスレクリエーション



10月5日

女性療養病棟では姫路セントラルパークでのサファリ見学に行きました。あいにくの雨天でしたが、サファリパーク内での自然や迫力のある動物を、間近で観賞することが出来ました。



ある動物を、間近で観賞することが出来ました。

10月7日



須磨にも行きました。



10月21日

淡路にみかん狩りに行きました。天気も良く、おいしいみかんを堪能しました。



医局から一言

今後、医局でコラムとして記事を掲載していく予定です!



「好きこそものの上手なれ」

副院長 正木 慶大 (まさき よしひろ)



最近テレビのバラエティー番組で面白い企画を見た。かつてよくテレビなどに出ていた人や芸人の名前を当てるといものである。テレビの前で思い出そうとしたが、なかなか思い出せないものである。しかし実はこの企画、当たらぬようにできている。なぜなら人は忘れるからである。元々人間はすべてを記憶できない。

記憶というものは実は選別されたものである。記憶されるのは概ね以下の2つである。①楽しいや悲しいなどの情動を伴う②繰り返されることである。①は恐らく人間の本能的な部分、要は同じ失敗を繰り返さないイコール成功のためのプロセス、いずれにしても命を存続させるために必要だからである。子供が火に触れ火傷の痛みを覚えて二度と触れないのはこの記憶のおかげである。恐怖や悲しみは喜びよりも深く記憶に残る。②は①で覚えきれなかったが、繰り返されているうちに記憶として定着する。繰り返すことが必要性として識別され記憶になる。いずれにしても記憶になるのはごく一部で大半は忘れてしまっている。

これでよいのである。元々すべてなど覚える必要性がないから。どうしても記憶に残したいなら必要なのは①楽しく②繰り返すことである。ここまで書いていて気付いた。昔の人はよいことわざを残した。好きこそものの上手なれ。まさにその通りである。①好きと思えるから②繰り返して上達するのである。故に逆もあり得る。どおりで私がAKBやら韓流を覚えられないわけである。①も②もないわけだから。



取 り 組 み

パン工房～社会適応訓練事業～の紹介

精神障害を持たれている方で社会復帰を目指しているがあと一歩がなかなか踏み出せない・・・そんな方々の背中を後押しする県の制度があります。その名前は「通所リハビリテーション事業」。その事業所として当院内に「パン工房」があります。ここでは「パン作り」を通して様々な作業訓練を行ない、社会的により一層の自信をつけていただけるよう、利用者さんを応援しています。当工場ではパン作りの工程を1から行なっておりますので、材料の小麦粉から色々なパンができるまでを実習できる点が、訓練を兼ねた利用者さんのもう一つの楽しみでもあります。作業はスタッフが丁寧に指導しています。見学も随時受け付けています。



外来診察のご案内

*受付時間は月曜日から土曜日の 8:30～11:30 です。
平成 23 年 10 月現在

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	森院長	玉田	森院長	森院長	高内	森理事長
	田原	大村	高内	太田	藤田	森院長
	小嶋	木村	正木	田原	小嶋	浅野
			浅野			大西
午後	正木 (予約のみ)	正木 (予約のみ)	正木 (予約のみ) 〈物忘れ外来〉	堀野 (予約のみ) 〈思春期外来〉	小嶋 (予約のみ)	

広報誌 (PDF) はホームページからも閲覧・印刷可能です。



編集後記

前回、広報誌創刊にあたってアンケートをお願いしましたところ、多くの機関よりご協力をいただきありがとうございました。患者様の入院環境や参加行事、チーム医療としての取り組み、精神科医療について等具体的な内容を希望とのお声を多くいただき、今後の広報活動に生かしていければと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。 広報担当

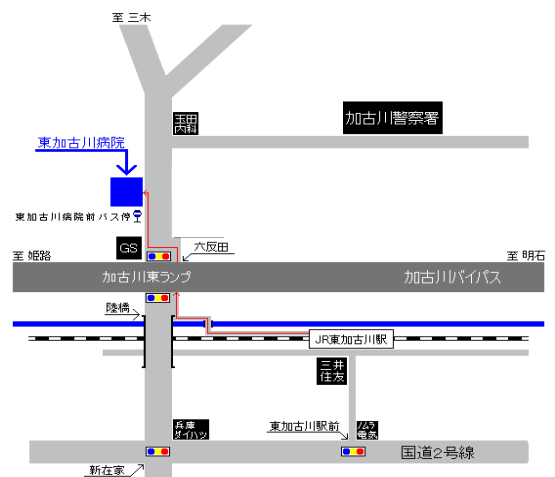
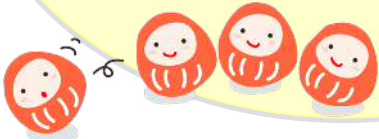
医療法人達磨会 東加古川病院

〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1197-3
TEL : 079-424-2983 (代表)
FAX : 079-424-2985
HP : <http://www.tatsumakai.jp>

当院では 2004 年に ISO9001 を取得しています



QJ01045/ISO9001:2008



- ①公共交通機関でのご来院
JR東加古川駅下車 北口より徒歩10分
- ②お車でのご来院
加古川バイパス 加古川東ランプ下車(山側すぐ)